

普及活動情勢報告（令和2年3月分）

須崎農業振興センター農業改良普及課

春期の気候変動と花蕾の増加に対応した草勢管理 ～ミョウガ現地検討会の開催～



現地検討会の様子

2月21～28日にかけて、JA土佐くろしおみょうが部会の現地検討会を多ノ郷などの現地ほ場で開催し、生産者101名が参加しました。

これから春にかけて暖くなり、花蕾の増加、害虫の発生と変化が大きい時期となります。このような中、収穫ピークに向けてしっかりと草勢を維持できるよう、ハウス内の温湿度の急激な変化を避けることや養液のpH、ECをしっかりとチェックすることなどについて説明しました。

参加者からは、葉幅による草勢の測り方や養液循環装置の使い方について質問がありました。

当課では、今後もミョウガの収量・品質の向上に努めます。

普及活動内容の検討 ～第2回須崎地区農業改良普及推進協議会～



今年度実績について説明中

2月27日、須崎地区農業改良普及推進協議会を開催、外部委員12名の参加をいただきました。

当課から今年度の普及活動の取り組み内容や実績、次年度の普及計画の概略について説明し、その後意見交換を行いました。

委員からは、担い手確保やスマート農業などについての質問や意見が出されました。また、トラクターの大型特殊免許取得に関しては、まったなしの切実な問題として、支援や対応等について多くの意見をいただきました。

当課では、委員からでた意見等を次年度普及計画に反映させ、引き続き関係機関と連携しながら課題解決に取り組んでいきます。

ミョウガの樹作りは今がポイント！ ～ミョウガの現地検討会～



意見を交換する生産者

2月28日、JA高知県高西地区津野山営農経済センター管内のミョウガ部会17名が梶原町のほ場に集まり、現地検討会を行いました。

育成期間の最終ステージの時期とあって、参加者は見学ほ場の樹姿を熱心に観察していました。当課は2月中旬に実施した生育調査の結果を個別に配布し、篤農家の樹姿と比較できるようにしました。

当課は、今後も関係機関と協力してミョウガの安定生産、栽培技術向上に向けた支援を行っていきます。

春に向けて栽培管理を確認 ～インゲン現地検討会の開催～



栽培管理資料に目をやる
参加者

2月28日、中土佐町上ノ加江のハウスで、JA土佐くろしおインゲン部会の現地検討会が開催され、4人の生産者が参加しました。

当課からは、今後の環境変化で気をつける栽培管理や会場の1条植え実証区の作業効率などについて情報提供しました。

参加者は1条植えの生育状況を慣行区と比較したり、単価の動向や収量について情報交換をしていました。

当課は、今後も部会活動や実証区調査などを通して、生産者に栽培管理や収穫作業効率について情報提供していきます。

樹形を改善して実のなる樹を作ろう！ ～ユズの剪定講習会～



剪定講習会の様子

3月2日、JA高知県津野山営農経済センター管内のユズ生産者39名と、津野町と梶原町の現地ほ場で剪定講習会を行いました。

講習会では剪定のポイントについて説明と実演が行なわれました。津野町ほ場では、特に誘引の方法と注意点などについて、梶原町ほ場では結果母枝を作るための剪定方法について実演を行いました。生産者からは様々な意見が飛び交い、どの枝を切るべきか参加者全員で考え、賑やかな講習会となりました。

当課は、今後も関係機関と協力してユズの安定生産、栽培技術向上に向けた支援を行っていきます。